

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0264

(注)本稿は 2013 年 5 月 11 日から 20 日まで 3 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.5.22  
前田 高行

## MENA(中東・北アフリカ)22カ国の GDP の比較(2013年4月版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その3)

目次	頁
1. 2012年の各国の名目 GDP	2
2. MENA 各国の一人当たり GDP	2
3. 対前年 GDP 伸び率の推移(2008～2012年)	
(1)MENA17カ国のGDP伸び率	3
(2)MENA主要4カ国と日中米のGDP伸び率	4

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第3回のランキングは IMF がこのたび発表した「World Economic Outlook Database, April

2013」(以下 WEO2013)をベースに各国の GDP について比較しました。WEO2013には 1980 年から 2018 年までの国別の GDP、貿易額、人口、財政収支など数多くのデータがありますが、ここでは 2008 年から 2012 年までの過去 5 年間の名目 GDP 及び一人当たり GDP(いずれもドル建て)を取り上げます。なお WEO2013では MENA19 カ国 1 機関のうちシリア及びパレスチナ自治政府のデータは発表されていません。比較のため日本、米国及び中国のデータも付記します。

(注)WEO ホームページ:

<http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2013/01/weodata/index.aspx>

(MENA の名目 GDP 総額は中国の 2 分の 1！)

## 1. 2012年の各国の名目 GDP

[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/3-T01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/3-T01.pdf)

MENA18カ国の中で2012年の名目 GDP が最も大きい国はトルコで、同国の GDP は 7,945 億ドルであり、これに次ぐのがサウジアラビアの 7,273 億ドルである。この 2 カ国が MENA では突出した GDP 大国で、第 3 位のイランの GDP は 5 千億ドルを超えているものの(5,489 億ドル)、両国の 7 割程度にすぎない。

4 位以下 10 位までは UAE(3,589 億ドル)、エジプト(2,567 億ドル)、イスラエル(2,409 億ドル)、イラク(2,125 億ドル)、アルジェリア(2,078 億ドル)、カタール(1,834 億ドル)、クウェイト(1,734 億ドル)と続いている。以上 10 カ国が年間 GDP1 千億ドルを超える国々である。UAE、カタールなど人口の少ない産油国がエジプト、イラクなど地域の大国と遜色のない GDP を誇っている。

GDP が 1 千億ドル未満の国は、モロッコ(975 億ドル)、リビア(819 億ドル)、オマーン(765 億ドル)、チュニジア(456 億ドル)、レバノン(413 億ドル)、イエメン(356 億ドル)、ヨルダン(312 億ドル)、バハレーン(270 億ドル)である。MENA で GDP が最も小さいバハレーンはトルコ或いはサウジアラビアの 30 分の 1、ヨルダンはトルコの 25 分の 1 にすぎない。

MENA18カ国の GDP 総額は 4.1 兆ドルであるが、このうちトルコ、サウジアラビア及びイランの上位 3 カ国で全体の 1/2 を占めている。世界 GDP トップ 3 の米国、中国及び日本の GDP はそれぞれ 15.7 兆ドル、8.2 兆ドル、6 兆ドルである。MENA の GDP 総額は中国のほぼ半分であり、米国の 4 分の 1、日本の 70% である。

これらのことから MENA 地域は世界レベルで見れば GDP が低く、同時に域内では GDP 格差が極めて大きいと言えよう。

(カタールの一人当たり GDP は 10 万ドル！)

## 2. MENA 各国の一人当たり GDP

(表 [http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/3-T02.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/3-T02.pdf) 参照)

MENA 諸国で 2012 年の一人当たり GDP が最も大きい国はカタールの 99,731 ドルである。これはルクセンブルグ(107,206 ドル)に次いで世界で二番目に高い。MENA でカタールに続くのが U

AEで、同国の一人当たりGDP64,840ドルは米国(49,922ドル)及び日本(46,736ドル)よりも高い。

3番目に高いクウェイトは45,824ドルでカタールの2分の1、4位のイスラエル(31,296ドル)は3分の1である。5位から7位にはサウジアラビア(25,085ドル)、オマーン(24,765ドル)、バハレーン(23,477ドル)が並んでおり、MENA上位7カ国のうちのGCCが6カ国を占めている。8位以下10位までのリビア、トルコ、レバノンの一人当たりGDPは1万ドルを超えている。因みにMENAの平均の一人当たりGDPは21,362ドルであり、世界的にみるとかなり高い水準である。これはMENA地域にはカタール、UAE、クウェイトなど人口が少ないにもかかわらず豊富な石油(ガス)によるGDP大国が多いためであり、一部の国が地域全体をかき上げしていると言えよう。

11位以下の国は一人当たりGDPが1万ドルを下回っており、イラン(7,211ドル)、イラク(6,305ドル)、アルジェリア(5,694ドル)の各国は産油国ではあるが人口が多いため6千ドル前後にとどまっている。これらの国は中国(6,076ドル)とほぼ同じ水準である。MENA14位以下にはヨルダン(4,879ドル)、チュニジア(4,232ドル)、エジプト(3,112ドル)、モロッコ(2,999ドル)と続き、最下位はイエメンの1,377ドルである(シリア、パレスチナはIMFの公表数値なし)。イエメンはモロッコの半分以下、トップのカタールと比較すると実に70分の1以下である。MENA域内の一人当たりGDPの格差は非常に大きい。

なお一人当たりGDPは各国のGDP総額を人口数で割ったものであるが、IMF統計における計算の母数となる人口、特にGCC諸国の人口数については注意すべき点がある。例えばカタールの人口は184万人とされ同国の一人当たりGDP99,731ドルは同国のGDP(1,834億ドル)をその人数で割ったものである。しかし同国人口のうち80%は外国人居住者(多くはインドなど貧しい国からの出稼ぎ労働者)が占めており、カタール国籍を有する自国民は40万人足らずにすぎない。日本を含め統計上の人口数は自国籍を有する者のみが対象で一時的な出稼ぎ労働者は人口に含まない(欧米のいわゆる移民は移住先の国籍を取得しており人口数に含まれている)。カタールの一人当たりGDPには出稼ぎ労働者も含まれており、これは実態を表していないと言える。このことは外国人比率が7割を占めるUAE或いはクウェイトについても言えることであり、3分の1が外国人であるサウジアラビアも程度の差はあれ実態を表していないと言えよう。

このような要素を加味した実際のGDPを算出した統計は見当たらないが、実態的にみればカタール、UAE、クウェイトの一人当たりGDPはIMF公表数値の数倍に達すると考えられ、これら湾岸産油国の一人当たりGDPが他国を大きく引き離し世界最高レベルであることは間違いないであろう。

(カタールの5カ年平均GDP伸び率は13.2%!)

### **3. 対前年GDP伸び率の推移(2008~2012年)**

#### **(1) MENA17カ国のGDP伸び率**

(表 [http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/3-T03.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/3-T03.pdf) 参照)

2008年のMENA17カ国の対前年GDP伸び率の平均は6.12%であり、その後の4年間は

2.76%(2009年)→5.40%(2010年)→3.83%(2011年)→3.49%(2012年)であり5カ年の平均伸び率は4.32%と安定した成長を示している。

これは MENA に石油及び天然ガスの生産国が多く原油価格の高騰により GDP が押し上げられたことが主な要因である。例えばカタールの場合、5年間の GDP 伸び率は 17.66%(2008年)→11.96%(2009年)→16.73%(2010年)→12.98%(2011年)→6.58%(2012年)と世界に例を見ない高い成長を示しており、5カ年の平均伸び率は 13.2%に達している。MENA で5カ年の平均伸び率が二桁を超える国はカタールだけである。サウジアラビアの5カ年平均の伸び率は 6.60%であり、復興の進むイラクの伸び率も 6.61%(2008年)→5.81%(2009年)→5.86%(2010年)→8.58%(2011年)→8.43%(2012年)と最近2年間の成長率は 8%を超えている。

しかし同じ GCC の産油国である UAE は 2009 年に、またクウェイトは 2009-2010 年の両年にマイナス成長を記録している。これは 2008 年後半に発生したリーマンショックとそれに続く油価の急落が影響したものであり、GDP の大半を石油に頼る GCC 産油国の特質が出ている。またリビアの 5 年間の成長率が +2.67%(2008年)→-0.79%(2009年)→+5.02%(2010年)→-62.08%(2011年)→+104.48%(2012年)と激しく上下しているのは、前半の 2009 年が UAE と同様油価下落の影響を受け、後半の 2011 年には激しい内戦状態に陥り石油生産を含む国内の経済活動が一時的に麻痺し、2012 年に急回復した様子を示している。リビアの他「アラブの春」の革命運動が GDP に影響した国にはチュニジア(2011年の GDP 成長率-1.94%)、エジプト(同 1.78%)、イエメン(同-10.48%)などがある。

イランは経済制裁の影響を受け、2010 年以降 3 年連続して GDP 成長率は下落し、2012 年にはついにマイナス成長(-1.88%)を記録している。イランは高いポテンシャルを有しながら GCC 各国のような高成長から見放されている。

## (2) MENA 主要4カ国と日中米の GDP 伸び率

(図 [http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/3-G01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/3-G01.pdf) 参照)

MENA4 カ国(サウジアラビア、カタール、トルコ、エジプト)に日本、米国、中国を加えた 7 カ国の 5 年間の成長率を比較すると、2008 年はカタールの 17.66%が突出しており、中国、サウジアラビア、エジプト 3 カ国が 7~9%台の高い成長率で中位グループを形成、一方トルコ、日本、米国の 3 カ国は成長率が低くトルコは 0.66%、日本、米国はマイナス成長を記録した。

2009 年には前年のリーマンショックと油価暴落の結果、中国は軽微な影響にとどまったもののその他の国は軒並み成長率が急落した。例えばカタールは 17.66%から 11.96%に、また日本は-1.04%から-5.53%とマイナス成長が加速した。そして 2010 年にはエジプトを除き、各国の成長率は前年を上回り、中でもトルコは-4.83%(2009年)→+9.16%(2010年)に急上昇、日本も+4.65%とプラス成長に変化している。

その後 2011 年から 2012 年にかけてはカタール、中国などの成長率が鈍化しサウジアラビアとと

もに7%前後を記録、トルコ、エジプト、米国及び日本はいずれも2%台の成長率を維持している。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maedat@r6.dion.ne.jp](mailto:maedat@r6.dion.ne.jp)